

現況分析における顕著な変化についての説明書 (教育/研究)

法人名 九州大学

学部・研究科等名 医療経営・管理学専攻

1. 分析項目名又は質の向上度の事例名

分析項目Ⅱ 「教育内容」

2. 上記1における顕著な変化の状況及びその理由

- 顕著な変化のあった観点名 「教育課程の編成」
- 「学生や社会からの要請への対応」

「教育課程の編成」においては、平成 20 年度、21 年度に文部科学省大学改革推進経費の補助を受け、「医療経営の問題解決能力を高めるプログラム」の開発を行い、教育内容の改善に取り組んだ。現在の医療崩壊の問題は、医療のアクセス、コスト、診療プロセス、診療結果、患者満足度などを測定、推計、設計できていないことが影響している（資料 1-A 左図参照）ことを念頭に、医療政策、経営、管理、コミュニケーションを改善するために、Plan(設計)、Do (実践)、Check (測定)、Action (推計と再設計) からなる PDCA サイクル（資料 1-A 参照右図参照）を回し、医療関係者の問題解決能力の向上に資するプログラムの開発を行った。成果は、①医療政策担当者コアプログラム、②医療経営担当者コアプログラム、③医療のリスクマネジメント担当者コアプログラム、④医療コミュニケーション改善コアプログラムとしてとりまとめ、平成 22 年度の当専攻のカリキュラムに導入し、他の専門職大学院、医療系大学院、医学部の講義においても活用している。

「学生や社会からの要請への対応」に関しては、学生の進路先として考えられる福岡県の保健医療介護部、国保連合会、看護協会と連携して、平成 20 年度、21 年度に、「医療経営の問題解決能力を高めるプログラム」に関連した推進会議を合計 6 回開催し、現場における医療経営・管理の専門職として要求される知識やニーズを聴取した。また、開発した教材を用いた講義を学生や医療関係者に聞いてもらい意見を聴取し、内容を改善した。なお、電子レセプトや DPC データの分析方法のマニュアルや経営・管理教材の作成などに関して学生との共同作業を行い、学生が卒業後、高度専門職職業人としての技術を習得することにもつながった。

資料 I - A 平成 21 年度大学教育改革プログラム合同フォーラムポスターセッションでの発表内容
(平成 21 年度 1 月 7 日、東京ビックサイト)

